

令和5年度運動会へのご参観ありがとうございました

石神井西中学校三大行事の一つ、「運動会」を開催いたしました。今年度は制限をなくし、近隣の方々にもご参観いただきました。

スローガンは、「石西魂 石西愛～気合・勇気・友情・絆～」。運動会実行委員長より、『一人一人が集団を意識し、全力で取り組めば、観ている方々に感動をしてもらえる』『今年は、「生徒が主体的に行動する運動会」を目標とする』という言葉がありました。運動会実施中に、グラウンドに教員の数が例年より大幅に少なかった事をお気づきの方も多くいらしたのではないのでしょうか。そうです、生徒の皆さんが役割に責任をもち、最小限の手助けで実施した運動会だったのです。「自分たちが主体となる」経験がとても重要で、この積み重ねが「生徒の皆さんが成長できる大きな力となる」ことは、間違いありません。何もかも手助けをしてしまう我々大人が「我慢する」ことも大切だと実感いたしました。

ご参観いただいた保護者の方々や近隣の方々より、生徒の皆さんへの励ましのお言葉をたくさん頂戴いたしました。また、1,300名を超える人数の参観がありました。ありがとうございました。

<副校長 小林 寿典>

「ふれあい月間」～100%の笑顔を目指して

6月、11月、2月は友人関係や自分の命について考える「ふれあい月間」です。アンケート調査や、講話などを行い、いつも以上に自分の行動を振り返る月にしています。先日の朝礼でも、いじめの定義やどんな理由があってもいじめをしないというお話がありました。

さて、いじめの定義は時代によって変化をしていますが、現在の定義は被害を受けている人が「心身の苦痛を感じているもの」とされています。「嫌だな」「やめてほしいな」と思わせる行為は「いじめ」なのです。しかし、そもそも「嫌だな」と思われない行為の中にも、やめるべき行為はあるのではないのでしょうか。

- ・自分と意見が合わない人の事をSNSで紹介し、裏で孤立化させる。
- ・「こんなことをしていたよ」と噂を流し、仲間内で盛り上がる。
- ・直接的には危害を加えなくても、陰であだ名で呼ぶ。

このような行為は、噂を流されている人が気づきさえしなければ、苦痛を感じることはありません。しかし許される行動でないことはみんなが分かるはずで、陰でひそひそしているメンバーの心はどんどん屈折します。何よりその事実を本人が知った際には大きなダメージを与える行為となります。

どんな想いがあっても、アウトプットした言葉や態度にしたものがメッセージとして発信されます。皆さんが楽しく会話している内容は、誰が聞いても気持ちがいい内容ですか？悪口で成り立つ会話で本当に自分や友人が笑顔になりますか？

私は、自分と他人の人生を大切にするため、常に善悪の判断を正しくできる人になりたいです。「ふれあい月間」を機会に、もう一度自分の行動を見返してみてください。

<生活指導主任 古賀 旭>